

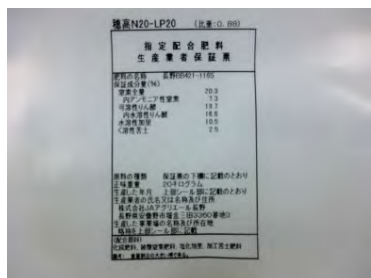
No.22 キーワード：オリジナル肥料

農事組合法人
安曇野北穂高農業生産組合
長野県安曇野市
HP: <http://www.kitahomai.jp>

基本情報

- ・ 気候 内陸性気候
- ・ 土質 砂壤土
- ・ 従事人数 11人
- ・ 臨時雇用 延べ 750人／年
- ・ 飼料用米の作付開始：H20年産

品目	作付面積	平均区画
主食用米(移植)	93.5ha	25a
飼料用米(移植)	4.4ha	25a
飼料用米(直播)	1.6ha	25a
麦類	45.0ha	—
大豆	10.8ha	—



オリジナル肥料

経営方針(重視・優先していること、こだわり等)

- ・ 水稻→麦→大豆またはソバの2年3作を徹底
- ・ 良品であることを基本とし、その上で収量増を目指す
- ・ 技術は適期管理の徹底、資材は省力化と増収効果を判定して選定
- ・ 従業員1人あたり15haを基本に、規模に見合った雇用

稲作の施肥・防除におけるコスト低減の取組

- ・ 肥料
 - ① 大規模経営における省力化の必要に迫られ、速効性窒素とLPコート窒素を組み合わせたオリジナル全量基肥肥料の「ワンタッチ肥料」を導入し、追肥の労力をカット
 - ② 当該「ワンタッチ肥料」の窒素成分濃度を高めるとともに、側条施肥により省力化を図り、単位面積当たりの肥料施用量を低減し、作業の効率化と省力化

導入効果

- ・ 施肥
 - 肥料費▲約4割
(地域慣行との比較)
 - 労働時間▲約7割
(基肥の田植え前プロキヤスによる施肥、穂肥の動力散布機による2回施肥体系との比較)
 - 労働時間を労賃に換算すると約850円/10a削減(削減時間0.5時間/10a、平均時給1,700円で計算)

支援体制

- ・ 実施したきっかけ(情報源)
普及センターから情報を得、JAを介してオリジナル肥料の製造を全農に委託
- ・ 地域では、農地・水・環境保全向上対策事業で協力関係を構築し、安曇野市からは補助金の窓口支援、JA、普及センターからは技術情報支援

課題・今後の目標

- ・ 地域の気象条件、品種に応じて肥料ブレンドの微調整が必要
- ・ 倒伏の軽減による品質向上
- ・ コスト低減の一層の推進